

火ばら談義

須坂の伝統野菜 作りに挑戦

藤澤 隆之

この四月から須坂市立豊丘小学校に勤務しています。久しぶりに三年生の担任になりました。年度当初、総合的な学習の時間にどんな学習をしようかとあれこれ考えました。三年生では理科で「種子の発芽」、社会科で「須坂市の様子」の学習があります。そこでこれら二つの教科の学習を発展させて、須坂の伝統野菜の沼目越瓜と八町きゅうりを栽培してみました。子どもたちも「どんなきゅうりができるのかな」「越瓜ってどんな野菜なのかな」と興味をもって、「自分達で育ててみよう」ということになりました。

どちらも苗で販売されていましたが、発芽の様子から観察できるようにと種を購入して栽培しました。とても薄くて小さな種をポットに蒔いて、大事に水やりを続けると、五日目に芽が出ました。大きくなって力強い子葉に、子どもも担任も植物の生命力の強さを感じました。



本葉が数枚出てきたところで、学校のすぐ近くの畑に移植をしました。その後は定期的な畑へ行き、枝を整えたり雑草をとったりしました。きゅうり栽培では摘芯・摘花・摘葉が大切というのを聞き、本やネットで調べた通りにやってみると、順調に大きく育っていきまし。特に思い切って摘葉をして、風通しをよくしたことが生育によかったように思われます。

そして、七月中旬からたくさん八町きゅうりと沼目越瓜を収穫することができました。特に八町きゅうりは、一日で一気三、四センチも大きくなり、成長の早さに子どもたちもびっくりしていました。

収穫した作物は、コロナウイルスの感染予防のため、学校で調理してみんなで味わうことはできませんでしたが、各家庭でたっぷり食べていただきました。須坂の伝統野菜が、子どもたちにとってちょっぴり身近なものになりました。



カット 井上小 堀田幸雄

サンタ苦勞ス

月岡 英明

長く教員をやってきた。若い頃は転勤範囲が広く、私は南端から北端まで全県を股にかけて異動して歩いた。特に山間地への赴任が多かった。特に山間地警備隊とも言われてきた。我が子達には転校を余儀なくし、申し訳なかつたように思うが、教員の子であればそれも宿命と言いつけてきた。

クリスマスが近づけばそわそわするのは我が子だけではない。子どもたちの笑顔が見たいと思うのは親ならば教員も同じ。「サンタさんに何をもらいたいんだ？」と訊ねると「○○が欲しい。」ところが山間地に住ん



今ではその息子も親になり、「サンタさんに何もらいたいんだ？」と伺いを立てているらしい。幼稚園児の孫はその日が来

ていると、町場までやたら遠い。土日は部活ばかりやっていて買いに行く暇もない。お目当てのプレゼントをゲットするには大苦闘がある。Amazonもスマホもない時代だ。妻が用意してくれると言うが、「それだけ俺の仕事をやらせてくれ」と突っ張った。ようやく時間を作って手に入れたプレゼントを大事に隠し、その日を待った。しかし直前になって突然息子の気が変わった。「やっぱり□□をもらうんだ。」これには焦った。「サンタさんだってそんなに色々言われても困るだろ。」息子の悲しそうな顔が学校に居ても浮かんできて切ない。同僚に相談したら、「そのプレゼントは俺が買い取ってやるから、違うの今から買いに行けよ。」その一言で、私は吹雪の中、夜の山道をぶつと歩いた。ありがたかった。おかげでクリスマス朝は我が子の満面の笑顔が見られた。

編集後記

令和二年度会報二二三号を発行し、無事にお届けすることができました。

今号は、創立記念日を迎えた学校の様子や、各学校で大切にされている行事や地域に根ざした学習活動の様子を中心に取り上げました。コロナ禍の中、様々な制限がありながらも、できるかぎり知恵を出し合い、工夫を重ね、行事や学習活動に精一杯取り組む児童生徒や先生方のエピソード・写真を提供していただきました。寒さがつのる中、心がほかほかする記事も…。

紙面作成にあたり、お忙しい中にもかかわらずご協力いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。会員の皆様も手にとっていただけるよう、会報を制作してまいります。今後ともご協力をお願い申し上げます。

(竹前)



須坂支援学校創立十周年に当たって

「障がいのある子もいない子も、地域の子ともは地域で育てる」「障がいのある人も安心して生活できる地域社会へ」という保護者の想いや須坂市の理念に基づき、須坂支援学校は長野県で唯一の市立の特別支援学校として設立されました。

はじめに、現在に至る本校の歩みを紹介いたします。平成二十二年四月、長野養護学校小学部須坂分校が須坂小学校の中に設置されました。この須坂分校を継承・発展させ、翌年の平成二十三年、県下初のそして唯一の市立の特別支援学校として誕生したのが須坂支援学校です。創立当初は小学部のみでしたが、一年後の平成二十五年に中学部も開設されました。また、その年に校章が、平成二十七年には校歌が制定されました。

次に現在の様子です。創立から比べ、小学部・中学部ともに在籍する児童・生徒数が増え、



みすずかる信濃わが母校 須坂 ~須坂支援学校のあゆみ~

須坂支援学校

今年度の在籍児童・生徒数は二十九名です。小学部は三学級あり、家庭で元気に遊んだり、教室で学習したりしています。また、併置校の須坂小学校とも日々の交流を継続しています。

中学部は二学級で、生徒一人ひとりの興味・関心を大切にし、学習しながら心を開き、交流を深めています。令和元年度から生徒会が発足し、選挙によって選出された生徒会長を中心に、生徒会活動も行われています。

そして早いもので、須坂支援学校も今年度創立十周年を迎え、記念事業を行うこととなりました。昨年度から準備委員会

第233号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会理事長 寺島寿一
 編集人 会報編集委員長 西原秀明
 印刷所 須坂新聞社

が開かれ、記念事業の日程や内容などについて話し合われてきました。今年度になり、準備委員会から実行委員会に業務が引き継がれ、「須坂市に支援学校ができたことに感謝し、みんなが十年のお祝いをしたい」という願いのもと、記念事業について検討を重ね、準備を進めてきました。



須坂市立須坂支援学校の開校 平成23年4月16日

は、新型コロナウイルス感染症予防のため参加人数を制限して記念式典・記念公演が行われました。当初、本校校歌の作詞作曲者の春畑セロリさんが、新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、当日は春畑セロリさんにはオンラインで出演していただき、簡素化した記念公演となりました。しかし、子どもたちは画面越しではあ



支援学校創立十周年をお祝いすることができました。

りましたが、セロリさんと一緒に校歌の演奏や絵本に合わせた演出を心から楽しむことができました。新型コロナウイルス感染症予防のためさまざまな制約がある記念式典・記念公演でした。

が、須坂支援学校の十年を振り返ったり、音楽を楽しんだりして、みんなで須坂支援学校創立十周年をお祝いすることができました。

創立十周年を迎えた本校にとって、本年度は一つの節目の年です。そして、それは同時に十年を見据えた新たな学校づくりのスタートの年ともいえます。そんな時だからこそ、大切にしたいのは本校の校名に込められた願いです。須坂支援学校には「特別」という言葉は入っていません。それは、どの子もそれぞれのニーズに応じた教育を受けたいという願いが込められているからです。私達職員は、創立時の願いを今後も忘れずに、伝統として受け継いでいきたいと思っています。

(青木 昭)



★アクセスする校歌が流れます

教育会だより

- 7 16 第2回研究委員会中心講師の指導・講演 講師 坪上一康先生 (信州大学術研究院・教育学系教授 演題「子どもと共に創る授業」 研究会委員会)
- 28 31 同好会夏期講座・同好会④中止 (各会毎独自開催)
- ※教育会夏期講演会中止
- 8 20 21 日本連合教育会研究大会 香川大会(次年度へ延期)
- 9 3 第4回研究推進委員会
- 4 第5回同好会
- 5 ※上高井教育研究会会中中止
- 9 第4回理事会
- 23 上高井教育七団体連合県教育委員会
- 10 1 第5回研究推進委員会
- 6 第9回研究推進委員会
- 15 第6回同好会
- 19 第6回研究推進委員会
- 24 17 18 郡科学作品展
- 25 あゆみ展・都市展覧会(元キヤナル)
- 30 第7回研究推進委員会
- 11 4 第5回理事会 令和二年度教育会中間計監査
- 6 第7回同好会
- 11 上高井教育会公開授業研究会 中心講師 坪上康先生
- ◎中心講師 指導 社会(小山小)
- ◎語学 高山小 算数 森上小 理科 重中
- ◎生活総合 笠原小 高山小
- ◎音楽 高井小 旭小 相模中 四土美術 小山小
- ◎体育 保良小 日小 家庭 技術 家庭 布地中
- ◎外国語 英語 豊坂中 道徳 特別活動 豊洲小
- ◎特別支援教育 高山小 公民館 健康 教育 会館
- ◎保健 教育 研究 会 上高井 会 国語 生活 豊高 豊高
- 17 16 第2回教育三団体代表者会
- 第4回教育会総会
- ◎令和二年度教育会中間計監査報告
- ◎令和3年度教育会事業計画案
- 21 ※信州教育の日 木曾大会(次年度へ延期)
- 28 第8回同好会
- 12 1 第8回研究推進委員会
- 22 21 研究委員会 会報233号発行
- 注 須坂市立須坂支援学校233号発行
- とさせていただきます。